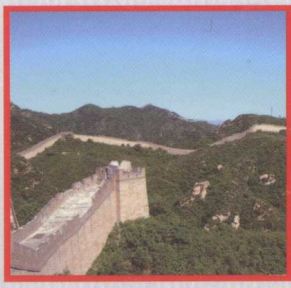
中国日本学研究优秀硕士论文『卡西欧杯』获奖论文选（一）

北京日本学研究中心◎编



此论文集的出版得到

卡西欧（上海）贸易有限公司的资助

图书在版编目（CIP）数据

中国日本学研究优秀硕士论文“卡西欧杯”获奖论文选（一）/北京日本学研究中心编．—北京：学苑出版社，2009.9

ISBN 978-7-5077-3422-5

Ⅰ．中…　Ⅱ．北…　Ⅲ．日本—研究—文集　Ⅳ．K313.07-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字（2009）第 170826 号

责任编辑：韩继忠
出版发行：学苑出版社
社　　址：北京市丰台区南方庄 2 号院 1 号楼
邮政编码：100079
网　　址：www.book001.com
电子信箱：xueyuan@public.bta.net.cn
销售电话：010-67675512、67678944、67601101（邮购）
经　　销：新华书店
印 刷 厂：永清县金鑫印刷有限公司
开本尺寸：787×1092　1/16
印　　张：20.625
字　　数：420 千字
版　　次：2009 年 9 月第 1 版
印　　次：2009 年 9 月第 1 次印刷
定　　价：50.00 元

前書き

『中国日本学研究「カシオ杯」修士論文コンテスト』は、中国における初の日本学研究大学院生による学位論文コンテストです。

1972年中日国交回復以来、中日両国の間において、政治、経済、文化、教育などさまざまな領域をめぐる交流活動が行われてきており、また日増しに盛んになりつつあります。しかし、それにもかかわらず、中日両国国民の間における相互理解は、必ずしも十分に深まっていないのも事実です。

両国の間において、2000年以上友好往来の関係を持っているとはいえ、近代以後に起こった悲しい歴史が深い溝として残っており、両国の国民感情にさまざまな影響を及ぼしています。いかにこの歴史的な溝を埋め、未来に向けての戦略的なパートナーシップの関係を結んでいくのかは、両国の政府、国民の肩にかかっている重大な課題です。

そして、この課題を解決する一番希望のある担い手は、お互いに相手国の完全な姿(いわゆる「等身大」の相手国)を十分に理解した若者たちです。その中で、重要な役割を果たしているのが、これら日本学研究を目指している大学院生の皆さんでしょう。

そのような目的を達成するために、中国日本語教学研究会、教育部高等教育外国語専攻教育指導委員会日本語部会、北京日本学研究センターが、カシオ上海貿易株式会社のご支援の下で、2008年第一回『中国日本学研究「カシオ杯」修士論文コンテスト』を企画し、実施しました。全国50幾つの日本語言語文学大学院コースが設けられている大学に呼びかけたところ、29の大学から33篇の優秀論文が推薦されました。全国各大学の日本学研究の専門家による厳しい予備審査と最終審査を通して、一等賞、二等賞、三等賞の論文が決定されました。この度その中から二等賞以上の論文を選び、ここに論文集として上梓することになりました。

今回のコンテストで選ばれた優秀論文は、いずれも中日相互理解を深めるために大きな参考になる素晴らしい作品です。このコンテストが今後継続されていくことは、きっと中日両国の若者の相互理解、ひいては国民全体の相互理解を促進していくに違いありません。このような素晴らしいコンテストに対して、全力をそそいで応援してくださったカシオ上海貿易株式会社の皆さまにも、心をこめて感謝を申し上げたいと思います。

北京日本学研究センター

主任　徐　一平

2009年6月

祝　　辞

首届中国日本学研究“卡西欧杯”优秀硕士论文大赛的举行，是我国专业日语教学历史上具有重要意义的一件大事，是我国日本学硕士研究生教育逐步走向成熟的重要标志。热切期待这项赛事能成为中国日语教育界重要而且具有权威的大赛之一，进一步促进我国硕士研究生日本学教学和研究水平的提高。衷心感谢承办大赛的北京日本学研究中心和给予大赛热心赞助的卡西欧（上海）贸易有限公司。

中国日语教学研究会　修刚会长

第一回中国日本学研究「カシオ杯」修士論文コンテストの開催は、中国日本語専攻教育の歴史において重要な意義をもつ大きな出来事で、中国日本学修士コース教育事業がますます成熟しつつあることを意味するものでもあります。このコンテストは、中国日本語教育において、もっとも権威をもつコンテストの一つになることを切に願うと同時に、日本学修士コースの教育と研究のレベルアップをいっそう促進することを期待します。あらためてコンテストの事務局を担当する北京日本学研究センター、多大なご援助をいただくカシオ上海貿易株式会社に感謝を申し上げます。

中国日本語教学研究会　修剛会長

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

表彰式挨拶

尊敬的北京外国语大学校长：
尊敬的各位评委、专家和来宾：
老师们、同学们：

第一届中国日本学研究“卡西欧杯”优秀硕士论文奖领奖典礼在北京日本学研究中心隆重举行，请允许我代表教育部高校外语专业教学指导委员会日语分委员会向这次评奖授奖活动的成功举行表示热烈的祝贺！

近年来，中国日语专业的硕士生培养无论在数量上还是在质量上都有长足的进步。现在已获日语语言文学专业硕士授予权的、正在培养本专业硕士的高校全国已超过60所高校。随着教育部对高校招生人数发展的调整，各高校对人才培养的内涵建设也越来越注重。指委会、学会与北外日研中心共同举办的这次硕士生毕业论文评奖活动，正是注重提高我国日语专业硕士生学习与研究水平、为国家培养更多的优秀研究生人才的一种尝试和努力。这一想法不仅得到许多高校及专家们的首肯和支持，也得到了方方面面、尤其是卡西欧(上海)贸易有限公司的大力帮助。借此机会，外语专业指导委员会对此表示由衷的感谢！

北京外国语大学北京日本学研究中心从1985年成立以来，为我国培养了众多的研究生人才，积累了丰富的经验。无论在师资和图书资料建设方面，还是在教学、研究质量方面都走在中国日语专业研究生培养的前列，已成为日本学研究的名副其实的基地。2008年，北京日本学研究中心就召开了日语专业硕士生培养的研讨会。根据研讨中的合理建议，今年又迅速组织了第一届优秀硕士生论文的评奖活动，对推动日语专业研究生教育的发展作出了脚踏实地的促进工作，对此，指委会表示十分钦佩，并保证将全力支持这样的努力。

相信通过我们日语界全体同仁的不懈努力，中国日语专业的研究生培养一定会在现有基础上更上一层楼，取得更加丰硕的成果。谢谢！

教育部高校外语专业教学指导委员会日语分委员会　谭晶华主任

目　次

前書き …… 1
祝辞 …… 2
表彰式挨拶 …… 3

言語研究部門

一等賞
鄭丹青　主語を修飾する形容詞の移動に関する中日対照研究 …… 3
二等賞
唐美暁　意味素性による「AのBのC」型名詞句の係り受け関係解析 …… 42
二等賞
何潤鳳　現代テレビドラマの会話における文末表現の男女差 …… 66

文学研究部門

一等賞
于　達　『高野聖』の成立に関する研究 …… 111
二等賞
韓　雯　秋の七草論 …… 153
二等賞
龚　嵐　本居宣長「物のあわれ」論の形成についての研究 …… 194

社会文化研究部門

一等賞
那希芳　西村茂樹の国民道徳論と儒教改良思想 …… 239
二等賞
万　敏　二宮尊徳の「一円融合」思想 …… 280

第一回『中国日本学研究「カシオ杯」修士論文コンテスト』入賞者 …… 318
第一回『中国日本学研究「カシオ杯」修士論文コンテスト』審査員 …… 320

言語研究部門

主語を修飾する形容詞の移動に関する中日対照研究

鄭丹青

目　次

第１章　はじめに
　1.1　形容詞移動の定義
　1.2　語義指向と形容詞移動
　1.3　本論の基本的な構想
　1.4　本論の構成
第２章　先行研究
　2.1　中国語の形容詞移動規則に関する先行研究
　2.2　日本語の形容詞移動規則に関する先行研究
　2.3　中国語と日本語の先行研究のまとめ
第３章　中国語の主語を修飾する形容詞の移動
　3.1　非対格動詞を述語とする場合
　3.2　非能格動詞を述語とする場合
　3.3　他動詞を述語とする場合
　3.4　存現文の場合
　3.5　本章のまとめ
第４章　日本語の主語を修飾する形容詞の移動
　4.1　非対格動詞を述語とする場合
　4.2　非能格動詞を述語とする場合
　4.3　他動詞を述語とする場合
　4.4　存現文の場合
　4.5　本章のまとめ
第５章　おわりに
　5.1　中国語と日本語における目的語を修飾する形容詞の移動規則の適用範囲
　5.2　中国語と日本語における目的語を修飾する形容詞の移動規則が適用できない場合について
　5.3　主語を修飾する形容詞の移動現象における主語の動作主性と対象性について
　5.4　今後の課題

第1章　はじめに

1.1　形容詞移動の定義

中国語においても日本語においても形容詞が連体修飾語から連用修飾語に移動するという言語現象が存在する。但し、「形容詞移動」という言い方を明確に提唱したのは日本人の学者である。

奥津敬一郎(1983)は、(1)の例文に示されるような言語現象を例にあげて「形容詞移動」と呼んでいる。

(1)a. 急流が白い泡をかんで流れる。

b. 急流が泡を白くかんで流れる。(以上は奥津敬一郎 1983:317)

「(1a)と(1b)とは、形が違うが、実質的な意味は同じである。違うところは『白イ泡ヲ』が『泡ヲ　白ク』になっているところである。つまり、形容詞の『白イ』が『泡』を修飾して名詞句となっているが、それから形容詞が分離して『泡ヲ』のあとに置かれ、『白ク』という副詞の形になっているのである。このような現象を形容詞移動と呼んでおく。」(奥津敬一郎 1983:317)

矢澤真人(1994)は、(2)の例文に示されるような言語現象について、「ある種の連体修飾構造においては、連体修飾成分の述部にかかる連用修飾成分の形にかえても実質的な意味が変わらない」と述べている。

(2)a. 大きな穴を掘った。

b. 穴を大きく掘った。

c. 軽い帽子を作る。

d. 帽子を軽く作る。(以上は矢澤真人 1994:665)

(2a)、(2c)の連体修飾成分が(2b)、(2d)の示すように連用修飾成分に変えても、「穴」が「大きい」、「帽子」が「軽い」という言語事実は変わらない。

本論は以上の二つの説を踏まえて、形容詞移動を形容詞が(日本語の場合では形容動詞含む)もともと名詞を修飾する連体修飾語の位置にあり、述語動詞を修飾する連用修飾語の位置に移動して、移動した後その文が非文にならないし、また移動する前と移動後の両文においても基本的な意味は同じであると定義する。

1.2　語義指向と形容詞移動

先行研究において、形容詞が連体修飾語を連用修飾語に変えるという言語現象を主に「語義指向」と「形容詞移動」との異なる理論で考察した。中国語の先行研究は「語義指向」の理論で解釈しているが、日本語では大体「形容詞移動」という言い方を用いている。

1.2.1　「語義指向」論

先ず「語義指向」論を見てみよう。朱徳熙(1982:154)は、次の例(3)の示すように、「ある形容詞が統語的には連用修飾語の形で動詞を修飾するが，意味的には動詞に関

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

わらないのに対して、目的語名詞に関わる」と指摘した。

(3)酽酽的沏了壶茶①。(朱徳熙 1982:154)

ここでは、上述した「意味的には動詞に関わらないのに対して、目的語名詞に関わる」というのは語義指向である。「語義指向」は統語関係と意味関係が合致していない場合、文の某成分が意味的にどの成分に関わっているのかということに関する理論である(陆俭明、沈阳 2003:301)。中国語において、語義指向理論は主に"只、都"などの副詞と補語の研究に用いられる(王红旗 1997:72)。また、助動詞および特殊な構文の語義指向の研究にも用いられる。研究が進むにつれて、語義指向理論で研究する範囲はますます広くなっていて、形容詞の語義指向の研究も行われていた。形容詞の連体修飾語を連用修飾語に変えるという現象に関する考察に一部利用されているものもある。例えば、侯友兰(1999)と王景丹(1999)の研究である。

語義指向分析法は転換した結果の立場からこの言語現象を検討する。つまり、移動した結果としての形容詞連用修飾語が意味的にはどの文の成分に関わるのかについて分析する。(4)、(5)に示されるように、形容詞は連体修飾語から連用修飾語に変えても意味的には相変わらず名詞に指向する。

(4)a. 热泪滚烫地滴落下来。

b. 滚烫的热泪滴落下来。(以上は王景丹 1999:57)

(5)a. 他脆脆地炸了盘花生米。(陆俭明 1999:382)

b. 他炸了盘脆脆的花生米。

(4a)、(5a)の中で、"滚烫地"、"脆脆地"という形容詞連用修飾語は意味的には動詞に関わらなく、それぞれ主語名詞"热泪"、目的語名詞"花生米"に指向している。(4b)、(5b)の示すように、もともとは連体修飾語の位置にある。連用修飾語の位置に移動するのは話し手がその状態を強調しようと思っているからだろう。

(6)a. 他早早地炸了盘花生米。(陆俭明 1999:381)

b. ＊早早的他炸了盘花生米。②

c. ＊他炸了盘早早的花生米。

(6a)の中で、"早早地"という形容詞連用修飾語は統語的に述語動詞"炸"を修飾し、意味的に動詞"炸"にも指向しているが、主語名詞"他"にも目的語名詞"花生米"にもまったく関わらない。だから、この場合、主語名詞か目的語名詞を修飾する連体修飾語の位置に現れることができないので、移動する可能性がない。

1.2.2 「形容詞移動」論

次は「形容詞移動」論を見てみよう。日本語の先行研究では、主に「形容詞移動」の立場で形容詞が連体修飾語を連用修飾語に変えるという言語現象を考察した。例えば、

---

① ここでは、"酽酽的"は連用修飾語である。書面では連用修飾語としての形容詞の後に"地"を書くかそれとも"的"を書くか、書き手自身の習慣によったものであり、必ずしも文法で分析した結果に合致するとは限らない。一般的に言えば、連体修飾語としての形容詞の後に"的"を書き、連用修飾語としての形容詞の後に"地"を書く。本論はこのルールに従うことにする。

② "＊"の記号がついている文はその文が非文法的であることを表す。

鈴木康之(1979)の「規定語」と「修飾語」①の移行関係の研究、また、上述した奥津敬一郎(1983)の研究がある。

これは形容詞移動の過程、つまり移動した後形容詞の位置と文法機能の変化および移動が成立する規則に注目している。そして、連体修飾語の位置に現れて移動できる形容詞にはどのような統語的な条件或いは意味的な条件が備わっているのか、「形容詞移動」の立場から検討したものである。中国語の先行研究において、もちろん「形容詞移動」の立場から移動条件を研究したものもある。例えば、侯友兰(1999)と王景丹(1999)の研究である。

今までの先行研究では、中国語と日本語が共通するのは目的語を修飾する形容詞の移動規則である。つまり、(7)、(8)に示されるように、形容詞が意味的には動作によって生じた結果の状態を表すなら、移動できる(刘大为 1992:17,侯友兰 1999:85,王景丹 1999:58,新川忠 1979:185,奥津敬一郎 1983:318,ロザリンド・ソーントン 1983:68,野田尚史 1983:85,仁田義雄 1983a:19,孙琦 2000:70)。

(7)a. 他写下几个歪歪扭扭的大字。

b. 他歪歪扭扭地写下几个大字。(以上は侯友兰 1999:85)

(8)a. 太郎は小さい山小屋を建てた。

b. 太郎は山小屋を小さく建てた。(以上は奥津敬一郎 1983:328)

本論は主語名詞を修飾する形容詞の移動規則を検討し、移動の過程に注目するので、「形容詞移動」の理論を援用する。

1.3 本論の基本的な構想

中国語の形容詞は意味的な違いによって、性質を表す形容詞と状態を表す形容詞②に分類される(朱德熙 1956:190)。文法機能では、状態を表す形容詞は性質を表す形容詞より連体修飾語になりやすいし、連用修飾語にもなりやすいのである(朱德熙 1982:73)。今まで集められた例文を分析した結果、移動できる形容詞の多くは状態を表すものである。本論で検討するのは主語を修飾する形容詞が連体修飾語の位置から連用修飾語の位置に移動する規則である。考察する形容詞はもともと連体修飾語の位置にあり、その基本的な意味機能は人名詞、物名詞を修飾するのである。高更生(2001:78)は形容詞を人、物の性質・状態を表すのと動作の性質・状態を表すのに分類した。動作の性質・状態を表す形容詞はその基本的な意味機能が動作を表す動詞を修飾するのであり、もともと連用修飾語の位置に現れて、移動すればその方向が連用修飾語の位置から連体修飾語の位置までであるので、本論の考察対象とはしない。本論は、先行研究にまとめた目的語を修飾する形容詞の移動規則に基づいて、中日両語の主語を修飾する形容詞の移動を検討対象とする。その内容は次の二つに絞られ

① 「規定語」と「修飾語」はそれぞれ連体修飾語と連用修飾語を指す。

② 朱德熙(1982:73)は状態を表す形容詞が以下の五類を含むと指摘した。(i)単音節形容詞の畳語。(ii)性質を表す形容詞の中の双音節形容詞の畳語。(iii)ABABの形で繰り返す双音節形容詞。(iv)接尾語がついている形容詞。(v)"程度副詞＋形容詞＋的"の複合語。

る。(i)目的語を修飾する形容詞の移動規則は主語を修飾する形容詞の移動を説明するのに適用できるかどうかという問題。(ii)適用できない場合ではどのように解釈すべきかという問題。

1.4 本論の構成

第1章　はじめに

本章では、形容詞移動の定義、相関理論背景及び本論の研究対象を説明する。

第2章　先行研究

本章では、中国語と日本語の形容詞移動規則に関する先行研究をまとめて分析する。

第3章　中国語の主語を修飾する形容詞の移動

本章では、先行研究にまとめた目的語を修飾する形容詞の移動規則に基づいて中国語の主語を修飾する形容詞移動現象を考察し、その移動条件について分析する。

第4章　日本語の主語を修飾する形容詞の移動

本章では、先行研究にまとめた目的語を修飾する形容詞の移動規則に基づいて日本語の主語を修飾する形容詞移動現象を考察し、その移動条件について分析する。

第5章　おわりに

第2章　先行研究

2.1 中国語の形容詞移動規則に関する先行研究

連体修飾語の位置にある形容詞が移動した後、統語的には依然として連体修飾語であるかそれとも連用修飾語になるかという問題については、潘晓東(1981)は移動した後連体修飾語であると指摘した。これに対して、連用修飾語になるという主張も見られる(陆俭明 1982,李芳杰 1983,邵敬敏 1987)。本論は後者の主張に基づいて形容詞移動の現象を観察することにする。

中国語の先行研究では、主語を修飾する形容詞の移動と目的語を修飾する形容詞の移動に分けられてその移動規則を検討したものである。ルールは次のように総括する。

2.1.1 主語を修飾する形容詞の移動規則

主語を修飾する形容詞の移動規則は語義指向の立場で検討されたものである。以下の三つの例に示されるように、主語を修飾する形容詞は意味的に主語名詞に指向するとともに述語動詞にも指向する場合は移動できる(侯友兰 1999:84)。

(9)a. 有个慢悠悠的声音问道:“记住什么教训呢?”

b. 有个声音慢悠悠地问道:“记住什么教训呢?”(以上は侯友兰 1999:83)

(10)a. ……,白花花的脑浆漂在水面上。

b. ……,脑浆白花花地漂在水面上。(以上は侯友兰 1999:84)

(11)a. ……,暖烘烘的太阳晒得她燥热起来。

b. ……，太阳暖烘烘地晒得她燥热起来。（以上は侯友兰 1999：84－85）

主語を修飾する形容詞が移動できないルールはまだ明らかにされていない。

2.1.2 目的語を修飾する形容詞の移動規則

(i)移動が成立する場合。目的語を修飾する形容詞の移動規則は主に「形容詞移動」の立場で考察された。

まず、(12)の示すように、形容詞は意味的に動作によって生じた結果の状態を表す。動詞の意味特徴は[＋生産]である。この場合では、形容詞が移動できる。（以上は王景丹 1999、侯友兰 1999）

(12)a. 他写下几个歪歪扭扭的大字。

b. 他歪歪扭扭地写下几个大字。（＝(7)）（以上は侯友兰 1999：85）

上の(12)では、目的語"大字"は意味的に"写"の動詞を表す動作によって生じた結果であり、形容詞"歪歪扭扭"はこの結果の状態を意味する。

次ぎ、(13)の示すように、動詞の後に"进"のような趨向補語がついている場合（侯友兰 1999）。

(13)a. 两个人正吵得不可开交，门外跑进一个汗津津的人来。

b. 两个人正吵得不可开交，门外汗津津地跑进一个人来。

（以上は侯友兰 1999：85）

第三、(14)、(15)に示されるように、動詞の後にアスペクトマーカー"着"がついている場合（侯友兰 1999）。

(14)a. 电镀车把上反射着金晃晃的光斑。

b. 电镀车把上金晃晃地反射着光斑。

(15)a. 磨屋前排着长长的队。

b. 磨屋前长长地排着队。（以上は侯友兰 1999：85）

(ii)移動ができない場合。目的語を修飾する形容詞が移動できないルールは「語義指向」の立場で検討されたものもあり、「形容詞移動」の立場で検討されたものもある。具体的には次の通りである。

まず、語義指向の立場で、形容詞は意味的に目的語だけに指向する場合は移動できない（侯友兰 1999）。(16)の例文を見てみよう。

(16)a. 雨滴顺着额上的头发滚进浅浅的眼窝里。

b. ＊雨滴顺着额上的头发浅浅地滚进眼窝里。（以上は侯友兰 1999：86）

次ぎ、(17)に示されるように、形容詞は動作によって生じた結果の状態を表すのではなく、動作の発生する前に目的語名詞で示される物の性質・状態を表す場合は移動できない（刘大为 1992：17、侯友兰 1999：86）。

(17)a. 扔过来一个红红的野果子。

b. ＊红红地扔过来一个野果子。（以上は刘大为 1992：17）

第三、動詞は次の(18)、(19)、(20)がそれぞれ示すように、"是"、"有"、"像"などの非動作動詞である場合、形容詞が動作の前に移動できない（侯友兰 1999：86）。

(18)a. ……原来频频送来的是热腾腾的美味佳肴。

b. ＊……原来频频送来的热腾腾地是美味佳肴。

(19)a. 军队里有英雄，也有坏蛋，也有平平常常的人们。

b. ＊军队里有英雄，也有坏蛋，也平平常常地有人们。

(20)a. 那颜色像翠绿翠绿的翡翠石。

b. ＊那颜色翠绿翠绿地像翡翠石。(以上は侯友兰 1999:86)

2.1.3 先行研究における形容詞移動の規則のまとめと分析

上述のように、中国語の先行研究では、主語を修飾する形容詞の移動と目的語を修飾する形容詞の移動に分けてその移動規則を検討したものである。但し、以上の解釈には行き届かないところもある。次はこれについて具体的に説明してみよう。

先ずは、主語を修飾する形容詞の移動についてである。その移動規則は語義指向の立場で検討されたものである。侯友兰(1999)は、形容詞は意味的に主語名詞に指向するとともに述語動詞にも指向するなら、移動できると述べている。今までの形容詞連体修飾語の語義指向に関する先行研究では、"Ns＋V＋A＋No"の構文において即ち目的語を修飾する形容詞の語義指向問題及び語義指向の判断基準にだけ言及したが(丁凌云 1999)、主語を修飾する形容詞の場合、その語義指向の判断基準はまだ検討されていない。筆者は侯友兰(1999)の解釈が不十分であり、主語を修飾する形容詞の移動現象を改めて考察した方がいいと思う。

次に、先行研究にまとめた目的語を修飾する形容詞の移動規則を見てみよう。(i)の第二と第三の規則は、つまり動詞の後に趨向補語或いはアスペクトマーカー"着"がついているというのは形容詞移動に対して十分な条件ではない。(13)、(14)と(15)の例文は中国語の存現文に属している。中国語の存現文の構文が"場所句＋動詞＋名詞"である(刘月华 2001:719、范晓 1998:207)。(13)の中で"跑"という動詞の後に趨向補語"进"がついているので、(13)は人の出現を表す出現文である(刘月华 1983:459)。部屋の中にいる人が外から走って入ってきた汗まみれになっている人を見た場合に適用する。だから、"汗津津"は"跑进"という動作に伴って部屋の中にいる人の目の前に出現する結果の状態を意味する。(14)の例文は動的存在文である。動的存在文動詞の意味特徴は[＋動作][-状態][-付着]であり(聂文龙 1989:96)、"動詞＋着"は動作の持続を表す(吕叔湘 1980:594、聂文龙 1989:96、刘月华 2001:723)。"金晃晃"という形容詞は動作の出現に伴って話し手の目の前に現れ、そして動作の持続する間も維持されている状態を表す。動作によって生じた結果の状態を表すとも言えるだろう。(15)の例文は静的存在文である。静的存在文動詞の意味特徴は[-動作][＋状態][＋付着]であり(聂文龙 1989:96)、"動詞＋着"は動作が終わった後状態の持続を表す(吕叔湘 1980:594、聂文龙 1989:96、刘月华 2001:723)。"长长"という形容詞は動作が終わった後出現する結果の状態を意味するとも言える。また、(ii)の第三の「述語動詞は非動作動詞である場合、移動できない」というルールはやはり(i)の第一の規則に合致する。何故かというと、非動作動詞であれば、動作によって或いは動作に伴って生じた結果が出現し得ないからである。更に、范晓(1998:207)の研究によれば、(19)の例文は"有"構文であり、存現文にも属している。以上分析したように、中国語の目的語を修飾す

る形容詞の移動規則は形容詞が動作によって生じた結果の状態を表す場合は移動できるのである。

2.2 日本語の形容詞移動規則に関する先行研究

前の1.2.2で既に述べたように、日本語の先行研究では、主に「形容詞移動」の立場で形容詞が連体修飾語を連用修飾語に変えるという言語現象を考察した。形容詞移動の言語現象を早く指摘したのは鈴木康之(1979)である。鈴木康之(1979)は、「文全体が新しく生じた現象を意味する」かどうかという視点から形容詞の移動規則を分析した。その後は、奥津敬一郎(1983)、矢澤真人(1994)はそれぞれ変化動詞文と非変化動詞文の構文で形容詞移動を検討した。次はそれらの先行研究について具体的に説明しよう。

2.2.1 鈴木康之(1979)の研究

(i)移動ができる場合。以下の例に示されるように、「文全体が、新しく生じた現象を意味していて,その現象にともなって、主語で示されるものが、主語を飾る規定語で示されるような状態をとるというような場合,主語を飾る規定語は、それに対応する修飾語に置き換えることができる」(鈴木康之 1979:322)。ここで「規定語」と「修飾語」は連体修飾語と連用修飾語を指している。

(21)a. 二月×日。朝、冷たい霧雨が降っていた。
　　b. 二月×日。朝、霧雨が冷たく降っていた。

(22)a. だから、はじめのうちは、がむしゃらな小型化競争が展開された。
　　b. だから、はじめのうちは、小型化競争ががむしゃらに展開された。

(23)a. 夏になると、島には沢山青いゴリがなった。
　　b. 夏になると、島には沢山ゴリが青くなった。

(24)a. 別院にエサ場ができたことは、かれらにとっては、あたらしい採食地がふえた、というにすぎないのである。
　　b. 別院にエサ場ができたことは、かれらにとっては、採食地があたらしくふえた、というにすぎないのである。(以上は鈴木康之 1979:322)

(ii)移動ができない場合。以下の例の示すように、形容詞連体修飾語が主語で示されるものの恒久的な性質や状態を意味している場合は、連用修飾語に置き換えることができない(鈴木康之 1979:323)。

(25)a. 左は洗面所、右は四つ五つ並んで風呂の入り口がついている廊下で、正面の板羽目は,洗面所の側と鈍角に交わるはすかいで、そこへ大きな姿見がかかっていた。
　　b. *左は洗面所、右は四つ五つ並んで風呂の入り口がついている廊下で、正面の板羽目は,洗面所の側と鈍角に交わるはすかいで、そこへ姿見が大きくかかっていた。

(26)a. 白い紙面は光をよく反射するが、文字の部分は、光を吸収するから反射光が弱い。

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com